

## 文化・芸術

### 「静物」

油彩・カンバス、45・2センチ×41・1センチ  
(広島市現代美術館蔵)

### 鬚光 (1907〜46年)

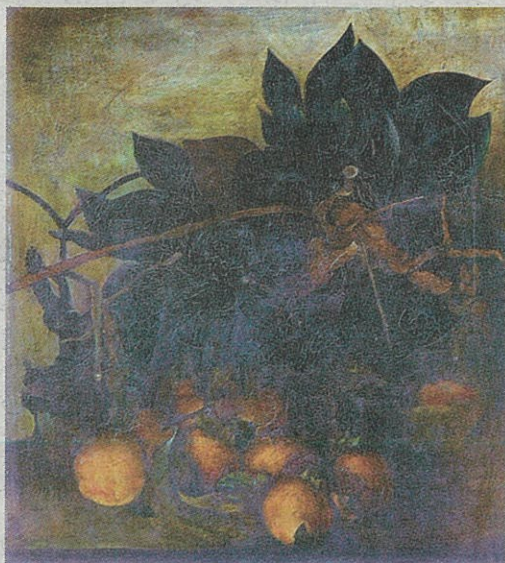
鬚光は、丸みを帯びた塊に心捉えられています。ときにそれはこの世にひとつしかないガラス玉のように、底光りする輝きを宿します。

本作でも、まるい塊を並置しています。かすかに照らされてある画面下部の塊群は、やはり果実なのでしょう。熟れて表皮が破け横たわっているようなさまが描かれています。

もう少し画面を追いましょ。ほの暗い場所に静かにひしめき合うその塊の輪郭の不確かさに比べて、枝を断たれてもなおざわめく黒々とした枝葉の束。暗渋な色調のなかに幾重にも筆を重ねた艶。漆黒に塗りこめられた大きな葉のようなフォルムには、鈍い緑の光沢がみられます。

本作の表面をゆっくりと見てゆくと、鬚光の筆圧、筆触が鮮やかにのこっていることにも気づきます。筆の弾力、その扱い、速度、そこから生み出される絵の具の繊細な盛り上がり、隣り合う色面のせめぎ合い、そうした鬚光の筆触の層が、異様なまでの生命力をもたらして迫ってくるようです。写実というよりは、神秘的な印象を与える本作。見る者は、鬚光独特の静物画の世界に引き込まれてしまうことでしょう。

(小此木)



### 〈名画の扉〉

大川美術館企画展から